

公開実用平成 3-72742

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-72742

⑬ Int.Cl.⁵

A 47 B 77/04
88/00

識別記号

Z
D

庁内整理番号

8812-3B
6578-3B

⑭ 公開 平成3年(1991)7月23日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 引出し収納装置

⑯ 実 願 平1-134258

⑰ 出 願 平1(1989)11月17日

⑱ 考 案 者 大 館 正 義 埼玉県川口市新井宿938番地の2
⑲ 出 願 人 積水化学工業株式会社 大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

明 細 書

1. 考案の名称

引出し収納装置

2. 実用新案登録請求の範囲

両側面の横アングルに滑車に取り付けられた引出しフレームと、両側面にレールが設けられた引出しケースとからなり、この引出しケースは、そのレールが引出しフレームの滑車上を移動して、出し入れできるようになされ、且つ、レールの下面には、引出しケースが前記引出しフレームに収納された状態にあるとき、滑車の後部に当たる係止用小突起が設けられていることを特徴とする引出し収納装置。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は引出し収納装置に関するものである。

特に、台所用品の収納に好適な台所引出し収納装置に関する。

(従来 of 技術)

従来、台所等に使用する引出し収納装置は台所

用品等を引出しケースに入れ、この引出しケースを出したり、入れたりして使用していた。

(考案が解決しようとする課題)

しかし、野菜や果物或いは壺等重い物を多く入れたとき等では引出しケースを出したり、入れたりするのに力を要し、主婦にとって、この作業は難渋なばかりでなく、引出しケースの底やフレームの棚板が傷付くという問題があった。

そこで、考案者は、引出しフレームから引出しケースを引き出したり、引き入れたりするに便利なように、引出しケースの下に車を取り付けてみたが、摩擦が小さいので、引出しフレームの中の安定性が悪く、振動等で簡単に引出しケースが引出しフレームから落ちるという問題があった。

更に、引出し収納装置の置いてある床は、必ずしも水平でなく、手前が低いときには引出しケースが自然に手前に動き出すという問題があった。

(課題を解決するための手段)

この考案は、上記のような問題を解決し、引出

しケースを引き出したたり、引き入れるのに便利であり、且つ、引出しケースの底や棚板に傷が付かず、しかも、引出しフレームの中で安定であって、振動等で簡単に引出しフレームから落ちることのない引出し収納装置を提供することを目的にしたものであって、両側面の横アングルに滑車を取り付けられた引出しフレームと、両側面にレールが設けられた引出しケースとからなり、この引出しケースは、そのレールが引出しフレームの滑車上を移動して、出し入れできるようになされ、且つ、レールの下面には、引出しケースが前記引出しフレームに収納された状態にあるとき、滑車の後部に当たる係止用小突起が設けられていることを特徴とするものである。

(作 用)

本考案の引出し収納装置の作用について説明する。

引出しケースが引出しフレームに収納されている状態では、引出しケースの両側面に設けられたレールが、引出しフレームの横アングルに設けら

れた滑車の上に載っていて、且つ、このレールの下面には、滑車の後部に当たる係止用小突起が設けられているから、引出しケースはこの係止用小突起に当たって手前に滑り落ちることがない。

次に、引出しケースの収納品を出したり、入れたりするために、引出しケースを引き出す状態について説明する。

最初に、少し力をいれて引出しケースを手前に引くと、引出しケースの両側面に設けられているレールの下面の係止用小突起が滑車を越える。この際、この係止用小突起の動きにつれて滑車が回るので、余り大きな力はいらないし、又、引出しケースの振動も大きくない。次に、引出しケースを更に手前に引くと、引出しケースの両側面に設けられたレールが滑車の上を、滑車を回しながら移動するので、引出しケースを軽く手前に引くことができる。

引出しケースを必要なだけ引き出した後に、収納品を出したり、入れたりする。

次に、引出しケースを引出しフレームの中に納

める状態について説明する。

先ず、引出しケースを押すと、引出しケースの両側面に設けられたレールが、滑車を回転させながら滑車の上を移動する。滑車を回転させながらの移動であるから、軽い力で引出しケースを納めることができる。

引出しケースが所定の位置に納められる直前になると、レールの下面の係止用小突起に滑車が当たるが、この突起は小さいし、しかも、進行している勢いと滑車を回転させながらの移動であるから、係止用小突起は簡単に滑車を越えることができる。

係止用小突起が滑車の上を越えると、引出しケースは所定の位置に納められる。

以上の説明で判るように、本考案引出し収納装置は、引出しケースを収納したり引き出す場合、引出しケースの両側面に設けられたレールが、引出しフレーム両側面の横アングルに取り付けられた滑車の上を移動するから、極めて軽い力で引出しケースをだしたり、入れたりでき、しかも、引

出しケースが納められたら、横アングルに取り付けられた滑車がレールの係止用小突起に当たるから、振動等で引出しケースが落ちるようなことがない。

又、引出し収納の手前が低くても手前に滑り落ちることもない。

(実施例)

以下図面を参照しながら、本考案の実施例を説明する。

図面は本考案の1実施例を示すものであって、第1図は引出し収納装置の斜視図、第2図は引出しフレームの正面図、第3図は第2図に示された引出しフレームのA—A断面図、第4図は引出しケースの側面図、第5図は引出し収納の要部である係止用小突起付近を示す斜視図である。

図において、1は引出しフレームで、縦フレーム11、横アングル12、棚板13からなっている。そして、横アングル12と棚板13とで棚が構成せられていて、本実施例では上下2段になっている。

横アングル 1 2 は、[型アングルになっていて、下板 1 2 1、横板 1 2 3、上板 1 2 2 からなっている。横板 1 2 3 の手前部分には滑車 2 が取り付けられている。そして、上板 1 2 2 が滑車 2 と交差する所の手前の上板 1 2 2 は切り欠かれている。下板 1 2 1 は上板 1 2 2 より幅広になっている。

3 は引出しケースで、横側面 3 2、縦側面 3 3、底面 3 1 とからなっている。

縦側面 3 3 の上部には取手 3 9 が設けられている。横側面 3 2 の下部には底面 3 1 に平行なレール 3 4 が設けられている。そして、収納ケース 3 が引出しフレーム 1 に納められると、横アングル 1 2 に設けられた滑車 2 の上にレール 3 4 が載るようになっている。又、レール 3 4 の下面には、滑車 2 の後部に当たる係止用小突起 3 5 が設けられている。底面 3 1 の後方には、車 3 6 が設けられ、この車 3 6 は下板 1 2 1 の上を移動するようになっている。また、底面 3 1 の前方には足 3 7 が設けられ、中程に係止片 3 8 が設けられている。

棚板 1 3 の後部は立ち上げられ、ストッパー 1 4 となっている。このストッパー 1 4 に足 3 7 が当たり、引出しケース 3 が、これ以上後方に進めないようになっている。又、ストッパー 1 4 に係止片 3 8 が当たり、引出しケースがこれ以上手前に進めないようになっている。

次に、この引出し収納装置の使用方法及び引出し収納の作用について説明する。

引出しケース 3 の取手 3 9 を持って、引出しケースを手前に引いて、引出しフレームの中から引出しケースを引出し、引出しケースの中に野菜類や塩等の収納物を入れ、取手 3 9 を持って、引出しケース 3 を後方に押すと、車 3 6 が下板 1 2 1 の上を転がり、且つ、レール 3 4 が滑車 2 の上を滑車 2 を回しながら、引出しケース 3 は引出しフレームの中に移動する。

このように、引出しケース 3 は、滑車 2 及び車 3 6 の働きにより、軽い力で収納箇所近く迄移動する。

収納近くになると、レール 3 4 の下面に設けら

れた係止用小突起 3 5 が滑車 2 に当たるが、引続き引出しケース 3 を押せば係止用小突起 3 5 が、進行している勢いがあるから、滑車 2 を回しながら簡単に越える。

引出しケース 3 の係止用小突起 3 5 が滑車 2 を越えると、引出しケース 3 の下面に設けられた足 3 7 がストッパー 1 4 に当たり、これ以上進まなくなり、引出しケース 3 は所定の位置に収納される。

このような状態で引出しケース 3 は引出しフレーム 1 の中に収納される。このときの係止用小突起 3 5 と滑車 2 との位置は第 5 図のようになっている。

かかる状態では、引出しケース 3 が手前に動けば、係止用小突起 3 5 が滑車 2 に当たり、後に動けば、足 3 7 がストッパー 1 4 に当たるので、振動等があっても前後に動くことはない。又、引出し収納が、少し位傾いていても、係止用小突起 3 5 が滑車 2 に当たるので、落ちることもない。

引出しケース 3 を引き出すには、取手 3 9 を持

って、少し力を入れて手前に引くと、レール 3 4 の下面に設けられた係止用小突起 3 5 が滑車 2 を回しながら越える。

更に、取手 3 9 を持って引出しケース 3 を手前に引くと、引出しケース 3 は下面に設けられた車 3 6 と滑車 2 との働きで、軽い力で手前に引き寄せることができる。係止片 3 8 がストッパ 1 4 に当たると、引出しケース 3 は止まる。この状態で野菜等の収納品を取り出したり、入れたりする。

(考案の効果)

以上説明したように、本考案の引出し収納装置は、引出しケースの両側面にレールが設けられ、引出しフレームの横アングルに滑車が設けられているので、両方の働きにより軽い力で引出しケースを出したり、入れたりできる。

又、引出しケースを収納したときに、このレールの下面に係止用小突起が設けられていて、これが滑車に当たるので、振動等があっても収納ケースが落ちるようなことがないし、引出し収納の手前が低くなっているにもかかわらず手前に落ちることもない。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の1実施例を示すものであって、第1図は引出し収納装置の斜視図、第2図は引出しフレームの正面図、第3図は第2図に示された引出しフレームのA-A断面図、第4図は引出しケースの側面図、第5図は引出し収納装置の要部である係止用小突起付近を示す斜視図である。

1引出しフレーム

1 2横アングル

2滑車

3引出しケース

3 4レール

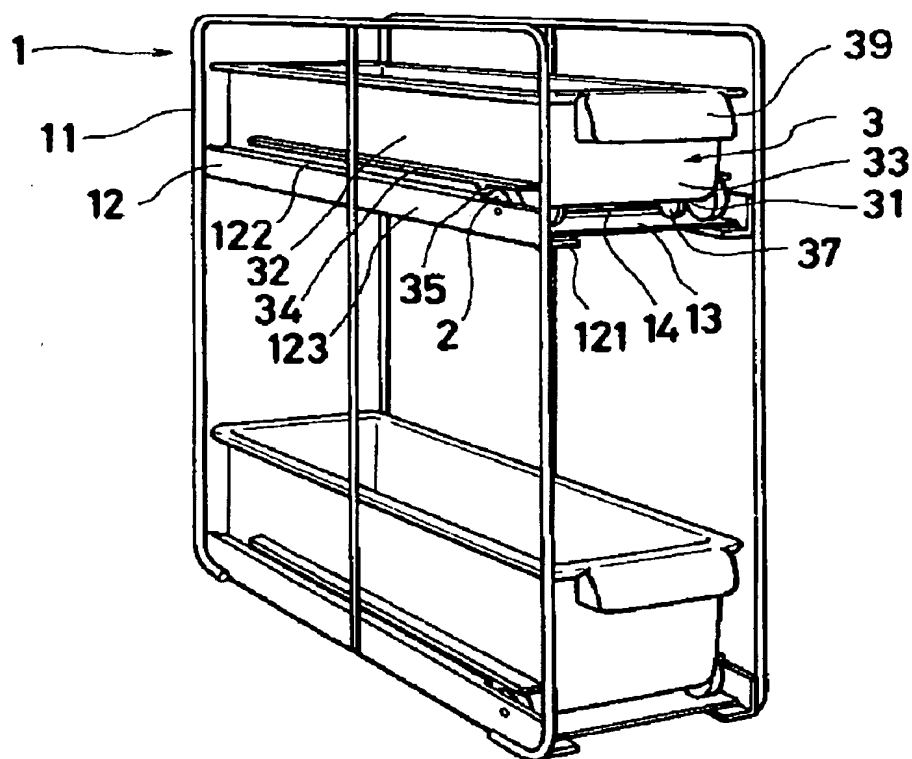
3 5係止用小突起

実用新案登録出願人

積水化学工業株式会社

代表者 廣 田 馨

第 1 図



512

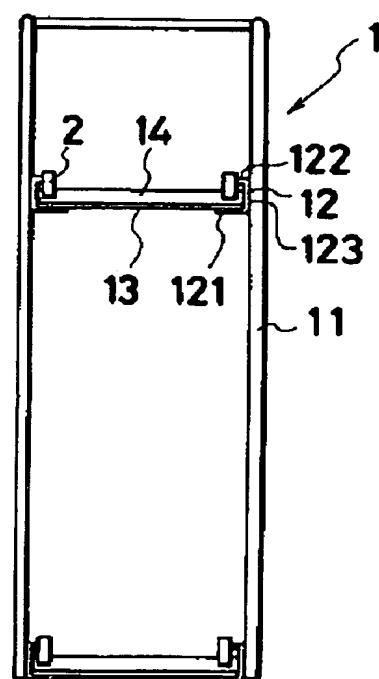
実用新案登録出願人 72742

実用新案登録出願人

積水化学工業株式会社

代表者 廣 田 馨

第 2 図



513

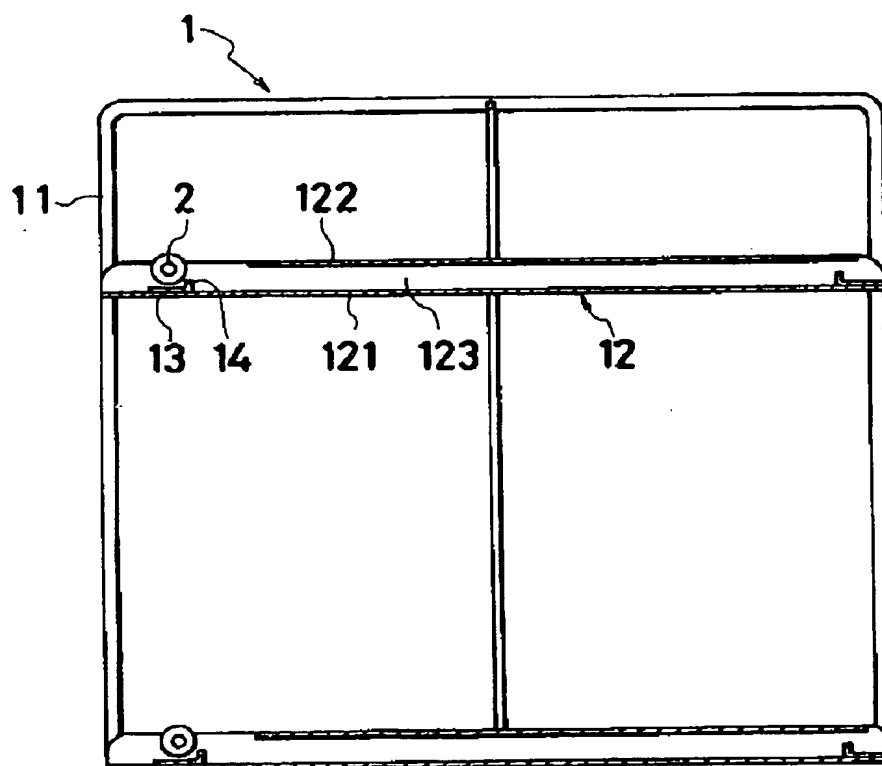
実開 72713

使用許業登録出願人

積水化学工業株式会社

代表者 岡田 肇

第 3 図



514

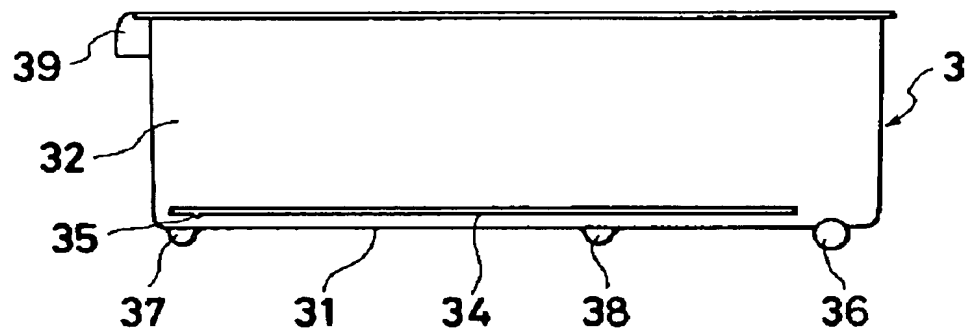
実用新案登録出願人
実用新案登録出願人

72742

積水化学工業株式会社

代表者 岡田 馨

第 4 図



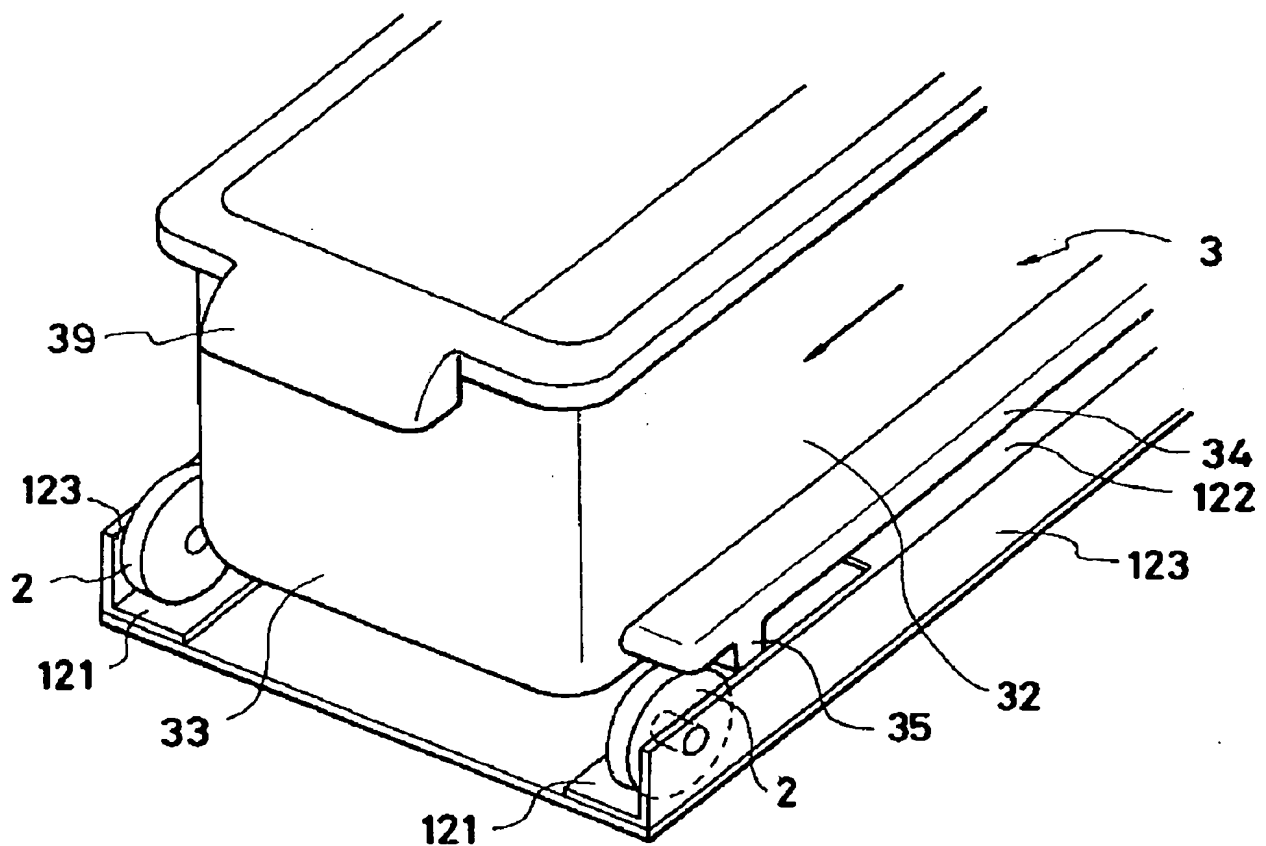
515

実用新案登録出願人

積水化学工業株式会社

代表取締役 田 啓

第 5 図



516

實用新案卷三出類人

積丹化学工業株式会社

代田 廣 田 啓

This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ BLACK BORDERS
- ☒ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REPERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images problems checked, please do not report the problems to the IFW Image Problem Mailbox